

自己評価報告書

平成23年4月28日現在

機関番号：17701
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2011
課題番号：20529005
研究課題名（和文）幕末京坂文壇の諸相解明－台湾大学「長沢文庫」・東京大学「本居文庫」調査を中心に－
研究課題名（英文）Some aspects clarification of kyoto-osaka area literary world of the end of Tokugawa age
研究代表者
亀井 森 (KAMEI SHIN)
鹿児島大学・教育学部・准教授
研究者番号：40509816

研究分野：日本近世文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：国文学・国学・長沢伴雄・本居文庫・台湾大学

1. 研究計画の概要

本研究は、旧帝国大学時代に台湾に流出し戦後も現地に遺存した幕末の国学者長沢伴雄（ながさわともお）の膨大な旧蔵書の1点1点の精査を行ない、幕末の和歌壇の一翼を担った長沢伴雄の伝記を明らかにし、国内の資料によってのみ構築された傾向が否めない国学史を是正し幕末期の京坂の文壇像を再構築することを目的とする。

具体的な方法として、台湾大学蔵「長沢文庫」を精査し、識語・書入等をデータベース化する。

さらに台湾大学に収められる長沢伴雄の歌文集および自筆日記を調査し、活字化を行う。国学者の文庫調査によって、長沢伴雄を一つの軸とした京坂の和歌・国学壇の諸相を解明することが可能となり、新見・新資料を報告、論文化し、新しい視座を内外の研究者に公表する。

2. 研究の進捗状況

上記の研究計画に対して現在の進捗状況は以下の通りである。

① まず台湾大学「長沢文庫」485点の全点調査を平成21年度までにほぼ終え、国文学研究資料館で使用している調査カードに全点の書誌を採取した。22年度はまず前年度までの調査で

の項目の記入洩れなどの確認作業を行い完了した。

②次に平成21年度までに『長沢伴雄歌文集 絡石の落葉』（3冊、台湾大学典蔵全文刊本1、台湾大学図書館）として長沢伴雄の歌文資料を活字化し、学界の研究資料充実に寄与した。私の台湾大学において高い評価を受け、出版を記念して「台湾大学長澤文庫の意義と有用性について」と題して講演を行った（台大図書館典蔵日文線装書之研究価値講演会、平成22年3月22日於台湾大学図書館）。

③さらに長沢伴雄の伝記を明らかにするために、天保から弘化年間（1830-1847）の15年にわたる長沢伴雄の自筆日記群について、所蔵する台湾大学図書館と活字化の出版契約を結んだ。これによって22年度より6年計画で日記を全て活字化することになった。現在、活字化作業を進めている状況であるが、虫損・破れ等、資料の状態がよくないため、作業に遅れが生じている。

④22年度は前年度に引き続き本居大平の調査に加え、本居内遠の資料137点も視野に入れて調査を行なった。また国立国会図書館所蔵の古典籍、特に同時期の国学者である中島広足（なかしまひろたり）の資料を調査し、長沢伴雄との

関連など重層的・補完的な調査を行なった。

3. 現在までの達成度

【達成度について以下の①～④から1つを選択し、その理由を簡潔に記載して下さい】

②おおむね順調に進展している

当該計画の目的である長沢伴雄の伝記的な解明において、文事の最重要資料である歌文集を3巻3冊出版した。さらに長沢文庫の全点調査を終えたことは長沢伴雄研究のみならず、当時の国学壇を考える上で多くの知見・資料を獲得するに至ったからである。

加えて本科研の期間内には成果を公表することはできないが、長沢伴雄自筆日記（5巻5冊、平成25年度より刊行開始予定）の出版契約を結ぶことができた。これによって当初の予定を順調に進展させていると言える。

4. 今後の研究の推進方策

今後の推進方策として、上記長沢伴雄自筆日記の活字化作業を進めるとともに、その過程で得られる新たな情報や知識を論文として公表するつもりである。

また昨年度までの調査で長沢伴雄研究には同時代の国学者である伴信友（ばんのぶとも）の存在が大きいことが分かった。今後は福井県小浜市立図書館に収められる伴信友の旧蔵書を精査することで新たな知見が得られると考えている。

過去3年間は多くの時間を台湾大学関係に費やしたので、東京大学本居文庫の調査がやや手薄であった。今年度は本居文庫の調査に重きを置くことで同時代をとりまく諸相に光が当たると考えている。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

①亀井森、佐賀大学蔵今泉蟹守関係資料、研究紀要、4号、29-50、2010年、査読無

②亀井森、近世後期類題和歌集編纂の一齣、近世文芸、90号、30-43、2009年、査読有

③亀井森、翻刻資料 大成経破文答釈ノ釈答、『黄檗僧と鍋島家の人々—小城の潮音・梅嶺の活躍』図録、90-99、2008年、査読無

〔学会発表〕（計3件）

①亀井森、近世後期『枕草子』研究一斑、九州大学国語国文学会、平成22年6月6日、九州大学

②亀井森、台大図書館典蔵日文線装書之研究 価値講演会、台湾大学長澤文庫の意義と有用性について、平成22年3月22日、台湾大学図書館

③亀井森、絵巻はなぜ模写されたのか—『春日権現験記絵巻』模写の風景—、和歌山市立博物館秋季特別展「岩瀬広隆—知られざる紀州の大和絵師—」講演、平成20年11月1日、和歌山市立博物館

〔図書〕（計3件）

①亀井森、台湾大学図書館、長沢伴雄歌文集 絡石の落葉 第3巻文章、2009年、230ページ

②亀井森、台湾大学図書館、長沢伴雄歌文集 絡石の落葉 第2巻恋の部雑の部、2009年、280ページ

③亀井森、台湾大学図書館、長沢伴雄歌文集 絡石の落葉 第1巻春夏秋冬、2008年、238ページ